

巨大地震と大洪水による「リアルな国家危機」に備えよ

公共事業が日本を救う【3】

京都大学大学院教授
藤井 聡



首都を襲う天変地異は国の命運を左右する「巨大な危機」

日常の中ではつい忘れ
てしまいがちになるが、少し
歴史を振り返れば「国家」な
るものが極めて不安定な存在
にしか過ぎないことは、火を
見るよりも明らかだ。かつて
のオランダやスペイン、ポル
トガルなどは「世界の大国」
だったのが、今やその面影は
ない。そんな国々の栄枯盛衰
は、当然ながら外交や戦争に
大いに支配されてきたもので
はあるのだが、それ以外の、
あるいは時にそれ以上の巨大
な影響を及ぼす原因があっ
たことをご存じだろうか。

「天変地異」である。

例えば中世の時代、ポルト
ガルは世界を席巻する超大国



関東大震災直後の銀座。現代の東京もいつ何時こうした廃墟と化してしまってもおかしくない状況にあるという

(大正12年9月、毎日新聞社提供)

だったのだが、その絶頂期の
ある日に、首都リスボンが巨
大地震に襲われ、街は廃墟と
化した。これによって「国力」
は大きく削がれ、これを機に
大国ポルトガルは大国の座か
ら凋落していったのだ。た
同様のことは、わが国の歴
史の中にも見いだすことがで
きる。「江戸幕府」の崩壊は、
黒船と薩長が最大因と信じて
疑われない国民は多かろうと思
う。しかしその他にも、ある
いは解釈によってはそれ以上
に重要な役割を演じた事件が
あったことを知る国民は、限
られているのではないと思
う。

それらまた「巨大地震」な

のである。

幕末の安政の時代、わずか
数年の間に江戸は巨大地震に
幾度となく見舞われた。これ
は今で言うところの「首都直
下型地震」であり「東海・南
海・東南海地震」であった。
この巨大地震のために江戸は
大ダメージを受け、江戸幕府
はその力を大きく削がれてし
まった。そしてこの幕府の「弱
り目」に「祟り目」として、
深刻な地震被害を免れた薩長
が追い打ちをかけたのが実態
だったのだ。言うならば、こ
の安政の大地震がなければ幕
府は薩長を打ち破っていた可
能性すらあったのだ。

——もうお分かりいただけ
よう。「首都を襲う天変地異」
とは、その国の命運を左右す
るほどの「巨大な危機」なの
である。

さて、現代の科学技術の進
展は、わが国がそんな「巨大
な危機」に直面していること
を明らかにしている。科学者
たちが構成された中央防災会

各種建物の耐震性の向上など 諸事業へ大規模な公共投資を

地震や台風のメカニズムを
誰も知らず、その対策も明ら
かでなかった中世ならいざ知
らず、その予測も対策も十二
分に明らかにされている現代
でこうした危機に無策である
ことほどに「巨大なる不作為
の罪はない。そもそもそれは、
単に東京市民に大損失を与え
るにとどまらず、日本国家の
繁栄、ひいてはその存亡をも
根底から脅かすほどに巨大な
「国家的危機」なのである。
この国家的危機を見据える

議は、30年以内に東京を巨大
な直下型地震が襲う確率が
「70%」その想定被害は最悪
で「100兆円」にも上ること
を明らかにしている。「東海・
南海・東南海地震」について
は、東京を含めた太平洋ベル
トの各都市を30年以内に襲う
確率が50%〜87%、その想定
被害が最悪で「81兆円」に上る
ことを明らかにしている。

しかもこれらの地震が皆、
連動する可能性すら指摘され
ている。つまりわが国は、最
悪で「200兆円」という人
類がこれまでに一度も経験し
たことがないような凄まじい
被害を首都東京を中心として
被る「国家的危機」を抱えて
いるのである。

さらに付け加えれば、治水
の専門家たちは巨大台風が首
都を襲い、堤防が決壊すれば
最悪で「70兆円」にも上る被
害をもたらす大洪水が生ずる
危機の存在をも明らかにして
いるのだ。

なら、「コンクリートから人
へ」なる耳あたりの良いスロ
ーガンを繰り返しつつ票集め
にいそしんでいる暇など、微
塵もないはずだったのだ。道
路、鉄道、堤防、港湾、そし
て学校などの各種建物の耐震
性の向上や各種の治水事業、
そして首都移転も見据えた防
災力向上を期した諸事業への
大規模な公共投資を毅然と行
い得る政府が、一日も早くわ
が国に誕生することを心から
祈念したい。